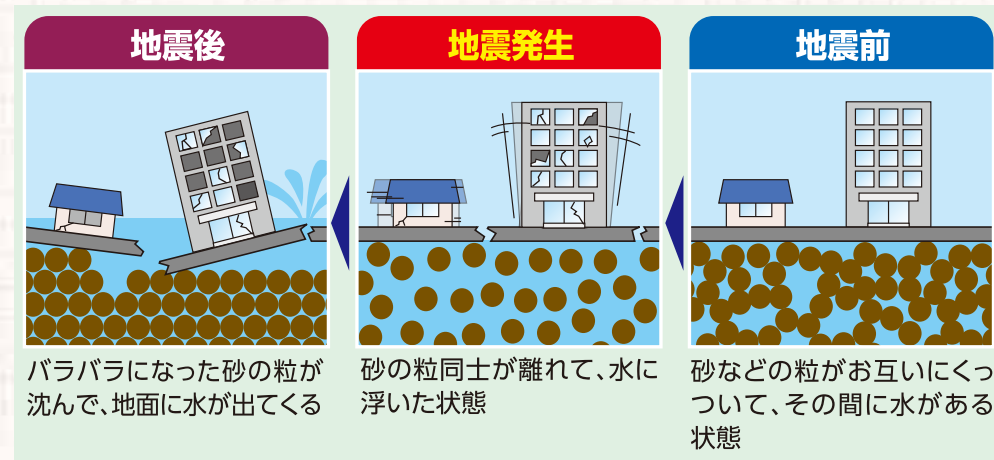
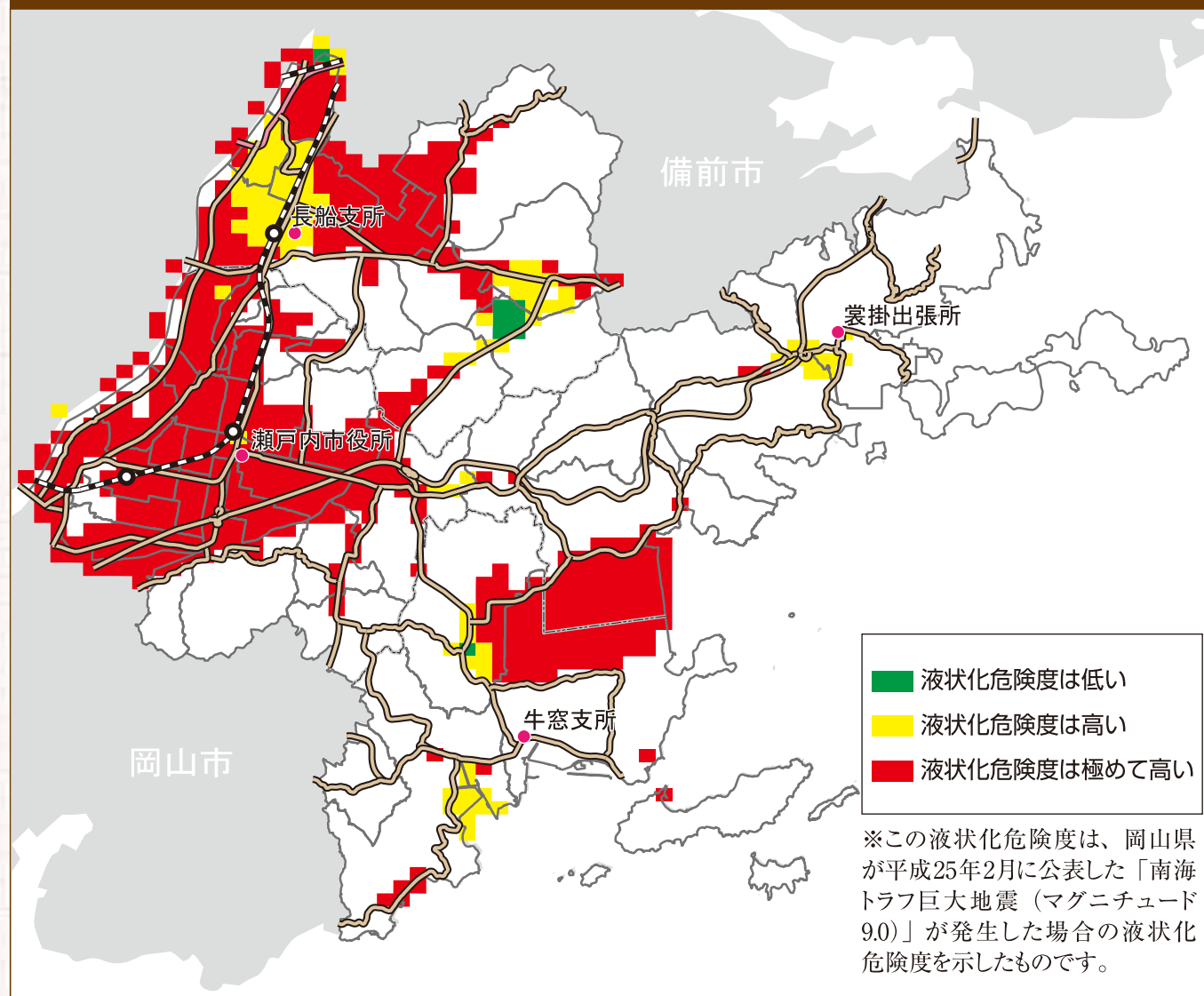


液状化ハザードマップ

下図は、南海トラフ巨大地震が発生した場合の瀬戸内市の想定液状化危険度を示しています。瀬戸内市では、平地部のほとんどで液状化の発生が懸念されています。液状化は、一般的に沿岸部や埋立地など地下水位が高い土地で発生する可能性が高いと言われています。

南海トラフ巨大地震発生時の想定液状化危険度



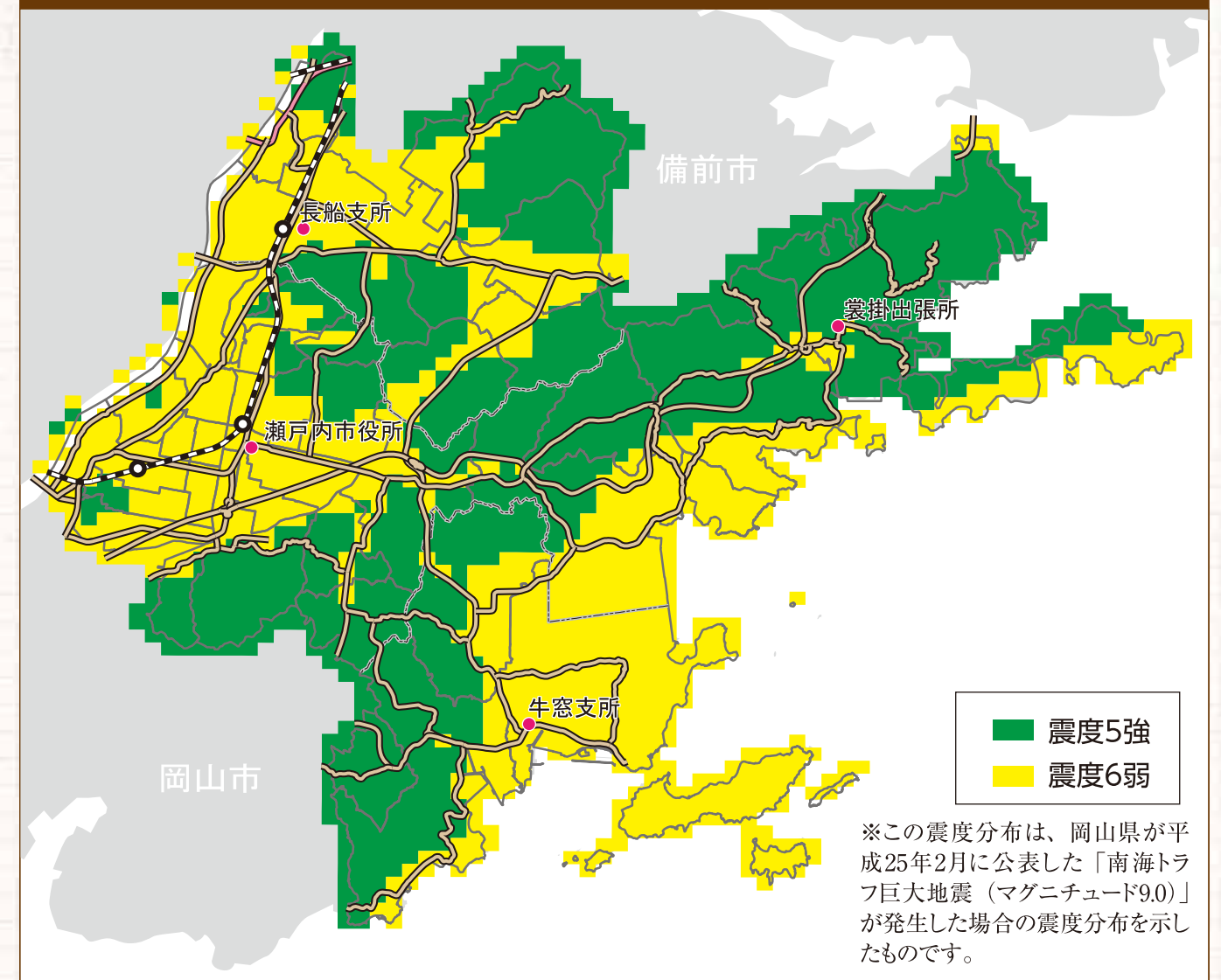
液状化現象とそのメカニズム

液状化とは、地震の揺れによって、地盤が一時的に液体のようになってしまう現象です。液状化が発生すると、建物が傾いたり、道路が陥没するなどの被害が生じる可能性があります。

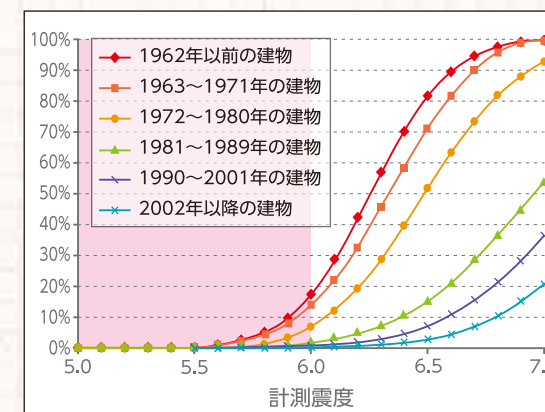
ゆれやすさハザードマップ

下図は、南海トラフ巨大地震が発生した場合の瀬戸内市の揺れやすさ(震度分布)を示しています。瀬戸内市では、最大で震度6弱となることが想定されています。なお、揺れの強さは、同じ地震が発生した場合でも震源域からの距離や、地盤の状況などによって異なります。特に、軟弱な地盤上では、より強い揺れになると言われています。

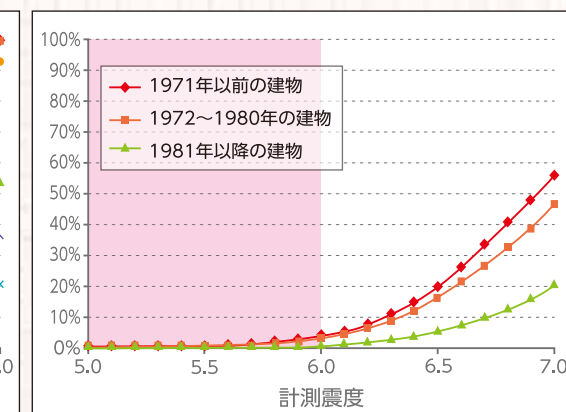
南海トラフ巨大地震発生時の想定震度分布



木造建物の場合



鉄筋コンクリート建物の場合



震度と建物の倒壊の関係

左図は、日本各地で発生した地震時の全壊被害実態から、揺れの大きさと全壊被害の関係をグラフに表したものです。